

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和8年5月29日（金）第5校時
13：25～14：10

対 象 第4学年1組 32名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

会 場 4階 4年1組教室

令和8年度 研究主題 学びを深める児童の育成 ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～
--

1 単元名 物語のいちばんの不思議ポイントを「ファンタジーの窓」で紹介しよう

教材名 『白いぼうし』（光村図書 4年 上）

並行読書材 作者 あまん きみこ

「車のいろは空のいろ」 白いぼうし・春のお客さん・星のタクシー・ゆめでもいい

2 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文の中で使い、語彙を豊かにすることができる。〔知識・技能〕（1）オ
- ・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）イ
- ・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）エ
- ・進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、いちばんの不思議ポイントについて考えたことを伝え合おうとしている。「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文の中で使い、語彙を豊かにしている。((1) オ)	・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。((1) イ) ・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。((1) エ)	・進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、いちばん不思議なところについて考えたことを伝え合おうとしている。

4 児童の実態

- ・前学年『まいごのかぎ』の学習では、物語から登場人物の場面の移り変わりによる気持ちの変化を読み、具体的に想像することができた。しかし、複数の叙述と結び付けて読んだり、目的をもって相手を選んで交流したりするには課題が残った。
- ・前学年『三年とうげ』の学習では、民話の面白さを伝えるために、揺れ動いて描かれている登場人物の気持ちの変化を、複数の叙述と結び付けて読むことができた。すすんで相手を選び、目的をもって交流が進められた一方で、複数の叙述と結び付けて根拠を明確にしながら交流していくことに課題が残った。

5 教材について

本教材『白いぼうし』は、登場人物である「松井さん」が、現実の世界と不思議な世界を行き来するという構成で描かれたファンタジー作品である。中心人物である「松井さん」が、偶然にも「白いぼうし」を見つけ、それをつまみ上げたことをきっかけに不思議な世界でのお話が進んでいく。「松井さん」、「男の子」、ちょうかも知れないと思わせる「女の子」にとって、「白いぼうし」は、それぞれ意味が異なる。その登場人物たちを繋いでいるであろう、爽やかで温かく描写されている「夏みかん」や並木の緑などの様々な色彩をイメージしながら、登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。

物語を読み進めていく中で、児童は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について想像し自分の考えを交流していく。その際、場面と場面を結び付けて物語の展開を捉えたり、登場人物の会話や行動、様子から性格や心情を叙述を基に具体的に想像していくことで、作品の魅力を十分に味わうことができる。

並行読書材では、同じ作者であるあまんきみこさんの『車のいろは空のいろ』シリーズを用意した。児童が「いちばんの不思議ポイント」を複数の場面の叙述と結び付けながら、気持ちの変化や性格、情景を見出し想像していくことができると考える。

6 研究主題との関連

(1) 目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手だて

① 言語活動の工夫

ア 言語活動

いちばんの不思議ポイントをペアで交流し、「ファンタジーの窓」で隣のクラスの友達に紹介する。

イ 言語活動の特徴

本単元は、教科書教材『白いぼうし』と同じ作者である「あまんきみこさん」の作品を複数冊用意して読み進める。物語の中で、登場人物の気持ちは、揺れ動いて描かれることが多い。物語から、いちばん不思議だと思った叙述を見付け、その前後の場面の叙述とどのように結び付いているのかを想像していく。そして、登場人物の気持ちの変化を声に出して友達と交流し、「ファンタジーの窓」にまとめていく。言語活動モデルである「ファンタジーの窓」には、内容の大体を捉え、誰が、どうして、どうなったかなど、物語全体を見通してまとめていける箇所と、いちばん不思議だと思った叙述とそのわけを複数の叙述と結び付けてまとめていける箇所を用意した。単元の最後に、隣のクラスの友達に向けて紹介していくことで、児童の学習意欲を高めていきたいと考える。

ウ 言語活動モデル



物語の内容
(誰が、どうして、どうなったのか)
物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(1)イ

いちばんの不思議ポイント
(不思議に思った叙述)

ファンタジーの窓

いちばんの不思議ポイント
「おなかまの車にのったのは、
きょうがはじめてでしたよ。
うんてんがほんとうにおじょうずなんですわねえ。」

**いちばん不思議に
思った理由**
物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(1)エ

いちばんの不思議ポイントのわけ
どうしてこの一文を選んだかという点、この一文が、本当の花よめさんが、きつねだったということも表しているからだと思います。
なぜかという点、松井さんが困ってこほんとせきばらいをした時にお母さんが「まあ、うんてんしよさんたら」と笑った様子が書いてあったからです。また、最後に、松井さんが「いいわねえ、…なかまにうんてんまでほめられて、うれしいわねえ」と言った様子が書いてあったからです。

7 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準 (評価方法)
第一次	1	<p>いちばんの不思議ポイントを隣のクラスの友達に紹介するための、学習計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のお薦めの物語の紹介を聞き、「いちばんの不思議ポイントを、隣のクラスの友達に紹介しよう」という課題をもつ。 ・学習計画を立てる。 	
第二次	2 ・ 3	<p>『白いぼうし』</p> <p>『白いぼうし』を読んで、不思議で面白いところを探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『白いぼうし』を読み、不思議で面白いところにサイドラインを引く。 ・拡大した全文シートに付箋を貼り不思議で面白いところをを全体で確認する。 ・「誰が、どうして、どうなったか」など、お話の大体の内容を交流する。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文の中で使い、語彙を豊かにしている。 (ファンタジーの窓) <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ・物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。 (交流・ファンタジーの窓)
	4	<p>『白いぼうし』</p> <p>いちばんの不思議ポイントとそのわけをはっきりさせ、「ファンタジーの窓」に書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・全文シートの付箋を手掛かりに、相手を選んで不思議で面白いところを交流する。 ・相手を変えて何度も交流を繰り返し、いちばんの不思議ポイントとそのわけを考える。 ・交流したことを基に、いちばんの不思議ポイントを「ファンタジーの窓」に書く。 	
	5	<p>「並行読書材」</p> <p>「車のいろは空のいろシリーズ」を読んで、不思議で面白いところを探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「車のいろは空のいろシリーズ」を読み、不思議で面白いところにサイドラインを引く。 ・「誰が、どうして、どうなったか」など、お話の大体の内容を交流する。 	

	6 (本時)	<p>「並行読書材」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>いちばんの不思議ポイントとそのわけをはっきりさせ、「ファンタジーの窓」に書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・全文シートの付箋を手掛かりに、相手を選んで不思議で面白いところを交流する。 ・相手を変えて何度も交流を繰り返し、いちばんの不思議ポイントとそのわけを捉える。 ・交流したことを基に、いちばんの不思議ポイントを「ファンタジーの窓」に書く。 	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <p>進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、いちばんの不思議ポイントについて考えたことを伝え合おうとしている。</p> <p>(交流・ファンタジーの窓)</p>
事後	7	<p>「並行読書材」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>いちばんの不思議ポイントを隣のクラスの友達に紹介しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した「ファンタジーの窓」を隣のクラスの友達に紹介する。 	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <p>進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、いちばんの不思議ポイントについて考えたことを伝え合おうとしている。</p> <p>(紹介・ファンタジーの窓)</p>

8 本時（全7時間中の第6時間目）

(1) 本時の目標

いちばんの不思議ポイントとそのわけをはっきりさせるために交流し、「ファンタジーの窓」に書くことができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。	・単元のゴールを明確にするために、言語活動モデルと学習計画表を確認する。	
	2 前時の学習を振り返る。	・並行読書材「車のいろは空のいろ」シリーズの、不思議で面白いところを見つけたり、「誰が、どうして、どうなったか」などの、お話の大体を交流したりしてきたことを振り返る。	
	3 本時のめあてを	・モデル動画を見て、交流の見通しをもつ。	
『車のいろは空のいろ』シリーズ いちばんの不思議ポイントとそのわけをはっきりさせるために交流し、「ファンタジーの窓」に書こう。			
展開 (37分)	4 いちばんの不思議ポイントとその訳を「ファンタジーの窓」にまとめるために交流し、自分の考えをはっきりさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書マトリックス表を活用して、同じ本を選んだ友達やお薦めしたい本の友達等、意図的に相手を選んで交流させる。 ・紹介したい本の複数の場面の叙述を結び付けながら、いちばんの不思議ポイントとその訳を交流させる。 ・交流が停滞しているペアには、教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、複数の叙述を結び付け、多様に想像を広げられるように、交流を促していく。 ・十分に交流を繰り返し、自分の考えがはっきりした児童から、自席に戻り「ファンタジーの窓」に交流したことを書く。 	<p>【思考・判断・表現】 物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 (交流・ファンタジーの窓)</p> <p>【A 基準】 登場人物の気持ちの変化を複数の叙述と結び付けて具体的に想像し、交流することで感想や考えをもっている。</p> <p>【B 基準】 登場人物の気持ちの変化を具体的に想像し、交流することで感想や考えをもっている。</p> <p>【B 基準に達しない児童への手だて】 教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、登場人物の気持ちの変化を一緒に考える。</p>
	5 交流したことを基に、いちばんの不思議ポイントとその訳を「ファンタジーの窓」に書く。		
まとめ (3分)	6 本時の学習を振り返る。	・本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	